

## 2007 年度 小委員会活動成果報告

(2008 年 2 月 5 日作成)

小委員会名	環境振動性能設計法小委員会		主 査 名：石川 孝重 就任年月：2007 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (環境振動運営委員会)		委員長名：井上 勝夫 主 査 名：濱本 卓司
設 置 期 間	2007 年 4 月 ~ 2011 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境振動に対する居住性能を確保するための設計法を性能設計体系に位置づけ、設計実務において有用な環境振動設計法を提案する。</li> <li>・2007 年度：環境振動に対する居住性能設計の手法、用いられる設計指標などの現状を把握する。</li> <li>・2008 年度：2007 年度の調査を継続するとともに、環境振動に対する居住性能設計の現状をふまえて、環境振動性能設計法を具体的に検討し、設計実務において有用な環境振動設計法についての骨子・方向性を定める。</li> </ul>		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無		
	石川孝重(日本女子大),小田島暢之(竹中工務店),片岡達也(山下設計), 小泉達也(大林組),濱本卓司(武蔵工大),原田浩之(三井住友建設) 日吉寛(積水ハウス),山下淳一(日本設計),吉松幸一郎(梓設計)		
設置 WG (WG 名:目的)			
2007 年度予算	49,500 円	ホームページ公開の有無：環境振動運営委員会の HP 内に議事録など公開 委員会 HP アドレス：環境振動運営委員会の HP よりアクセス	

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 環境振動設計法構築のための、振動源別設計フローの構築を行った。 2. 環境振動設計法の位置づけを明確にするために、実施設計上の地震荷重と風荷重の関係を明確にした。
委員会活動の問題点・課題	1. 今後、更に居住性能を優先するケースを抽出し、実務上の必要情報を盛り込むことで、設計法の骨子作成を行う。

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

## 2007 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>A</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本小委員会で、環境振動性能設計法を構築するための問題点の模索、抽出を行い、その足がかりとなるための設計フローの構築を行った。</li> <li>2. 環境振動性能設計法の位置づけを明確にするため、耐震・耐風設計の比較を行い、ターゲットとすべき建物条件の絞り込みを行った。</li> <li>3. 1・2の結果より、環境振動性能設計法を構築していくための情報は整いつつあるとみなせる。今後は、更に居住性を優先するケースの条件抽出を行い、実務上で必要な情報を盛り込むことで、設計法の骨子作成につなげる。</li> </ol>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。